



『たとえ リセットされても』大賞

揺らいだ心が見つけた答え

5年 R・Kさん

去年の作文で、A-Iには感情がないことを前提に「人間同士の関わり合いの大切さ」を書いた。でも、「たとえリセットされても」を読んで僕の考えは揺らいだ。愛はロボットだけど自分の感情を持つて見えたし、本当にそんなロボットがいたら僕も友達になれると思った。ロボットと友情が成立するなら、それは人間同士の友情と何がちがうのだろうか。そんな疑問を持ったとき、ふと友達との思い出がよみがえった。

けん玉の練習をしていて、なかなか成功せずにあきらめかけた時、近くで何度も成功させてくる友達の姿を見て、「かっこいい」と感動した。あんな風になりたとえ練習を続けるうちに少しもつできのよくなつた。とてもうれしくて、もっとがんばりたいと思えた。友達は一緒にいて楽しかつたり支え合えたりするだけではなく、その存在が何かをがんばるきっかけになることもあるのだと気づいた。

友達の存在が自分を動かす力になったのは柚果もそうだった。柚果が愛を友達だと言い続け、守護したのは、柚果にとって愛が大切な友達だからだ。その気持ちは「相手がロボットだからニセモノだ」と他人が言い切れるものではないと思つ。友達は「相手が何者か」ではなく「相手を大切だと思えるか」が重要なのかもしれない。

そう思う一方で、もし今いる友達がロボットだつたらと考えると、僕は少しびびり気持がになる。一緒にいた時間や、かけてくれた言葉は本物だったのかと不安がよぎる。そして、もしロボットとの友情だけで満足して人間の友達はいらなこと思つようになつたり。それはとてもさびしことだ。友情の形が変わっていつても、人の関わりを大切にしたとこつと思つは変わらざつ持つてみたい。

人との友情もロボットとの友情もそれぞれに価値がある。だから、どちらかに偏るのではなく、どちらも大切にしながらバランスを保つことが必要になつてこそ僕は思う。